

教職協働による 図書館利用促進活動のトライアルから恒常化へ ：東京経済大学図書部の場合

新正裕尚・角田浩司・久世泰子・相澤伸依

Abstract

In order to encourage students to read books and promote the use of the Tokyo Keizai University Library, activities of “TKU Toshō-bu (Library club)” from FY 2013 to FY 2015 were conducted. We report the outline of the activities and briefly discuss their significance. In addition, we describe how they are expected to continue in the ordinary activities of the library.

1. はじめに

大学図書館における機能としては教育・研究に資するという観点から、たとえば執筆のための調査を支援するためのレファレンスサービスなどが本質的であることは言うまでもない(井上, 2004)。しかし、昨今の大学図書館の機能は多様化してきている。たとえば、大学教育において「何を教えるか」から「何を学ぶか」へのパラダイムシフトが起こったことに関連して、国内の大学において「ラーニングコモンズ」と称されるスペースが続々と導入され、学生の学習支援に直接関与する機能の導入が進められている(廣田, 2011)。

一方、大学図書館に限らず公的図書館におけるトレンドとして、ブックトークや読書会などの様々なイベントを行ったり(たとえば榎本, 2013)、「知の交差点」としての役割(長神, 2008)をもたせたりする取り組みがみられる。関連して、多数の図書館においてマスコットキャラクターを設定し、情報宣伝などに活用していることも注目される。実際、毎年秋に実施されている「図書館総合展」においては図書館のキャラクターコンテストが2015年度から実施されている(図書館総合展, 2017)。このような従来の図書館機能と異なる方面での利用促進や広報を追求するには、それぞれの大学図書館の事情を踏まえて、学内者が協力してアイデアを持ち寄ることが必要であろう。

東京経済大学では、上に述べた新しい図書館機能の中で後者に関連する大学図書館の「柔らかい」機能を開発し、学生の読書推進および図書館利用促進をめざす目的で2013～2015

教職協働による図書館利用促進活動のトライアルから恒常化へ

年度にかけておもに教職員メンバーからなる「図書部」が構成された。本稿では、その活動の実施内容について取りまとめて、成果について論じるとともに、「図書部」終了以降の図書館の恒常的な活動への接続について簡潔に述べる。

2. 図書部の発足

図書部は、2013年度の「学内GP助成」による資金援助を利用して開始された。発足時から教職協働の要素があり、2013年度は教員3名、職員5名（一部の図書課員を含む）であった。その後、学内体制の変化により新たに発足した「教育改革支援事業」の援助を受け、またメンバーも入れ替わりつつ2014年度（教員3名、職員6名）、2015年度（教員3名、職員5名）と継続して行われた。ただし、支援事業の開始時期の都合により2014年度は2期からの活動となった。

東経大旧図書館は2014年2月1日に約46年の歴史を終えて閉館され、同年4月1日に新図書館が開館した。2013年度の発足時においては、この旧図書館から新図書館への移設時期をにらんだ形で企画され、(1)教職員・学生協働での活動を行い図書館サポーターとしての「図書部」を組織すること、(2)教育との新しい連携の形を試行すること、(3)図書館の新しい利用方法や新しいサービスを試行すること、(4)図書館の利用を促進するための広報活動を試行することの四点を目指して活動が開始された。2014年度以降は大学からの支援体制の変化や構成メンバーの入れ替えもあり、上記の活動目標がそのまま引き継がれていたわけではない。もっとも異なる点は、学生サポーターを主とする「図書部」から、直接関与する教職員メンバーを増強して、それらのメンバーが主体となった構成で活動を行なったことである。それ以外の、教育との連携を考えつつ学生の読書推進、および、広報活動を含む図書館利用促進を目標とした活動は、2014～2015年度においても踏襲された。

3. 取り組みの概要

3年間の主たる取り組みについて活動の種類によって区分して述べる。

3.1 読書会、講演会（ブックトークを含む）

あらかじめ設定した課題本を読んで、教員がファシリテーターを務めて、参加者でその感想等を話し合う形式の読書会を開催した（2013年度3回、2014年度9回、2015年度4回：表1）。特に、大学からの資金援助を得られたため、学外からのファシリテーターを招くことができたのが特徴的である。

そのほか、講演会やブックトーク形式でのイベントも回数としては多くないが開催した

表1 読書会の実施状況（2013～2015年度） *学外からの招聘者。

実施日	書名	担当者
2013年11月15日	小谷野敦『もてない男』	相澤伸依
2013年12月20日	西原理恵子『この世でいちばん大事な「カネ」の話』	相澤伸依
2014年2月1日	西加奈子『きりこについて』	相澤伸依
2014年5月13日	大野更紗『困ってるひと』	相澤伸依
2014年6月26日	辻村みよ子『代理母問題を考える』	相澤伸依
2014年7月14日	小田中直樹『フランス7つの謎』	相澤伸依
2014年10月25日	マイケル・サンデル『これからの正義の話をしよう』	池田誠*
2014年11月14日	F. ニーチェ『喜ばしき知恵』	菊地建至*
2014年11月28日	星新一『人民は弱し官吏は強し』	新正裕尚
2014年12月10日	有川浩『フリーター、家を買う。』	堺憲一
2014年12月16日	東浩紀『動物化するポストモダン』	高津秀之
2015年1月13日	安彦麻理絵『コンナオトナノオンナノコ』	相澤伸依
2015年5月11日	原田マハ『今日は、お日柄もよく』	堺憲一
2015年6月5日	宇野常寛『リトルピープルの時代』	高津秀之
2015年6月25日	ジャレド・ダイヤモンド『文明崩壊 上』	板橋雄大
2015年10月16日	J.S. ミル『自由論』	菊地建至*

表2 ブックトーク、講演会などの実施状況（2014・2015年度）

開催日	内容	演者
2015年1月9日	ブックトーク「恋する〈私〉を哲学する」	相澤伸依・宮野真生子・藤村安芸子
2015年7月9日	トークイベント「宮澤賢治と星と石」	大岡玲・榎基宏・新正裕尚・中田兼介
2015年10月21日	ワークショップ「データベース活用実践」	森岡耕作・現代ビジネス研究所
2015年10月31日	講演会「戦後漫画の原像」	桜井哲夫
2015年11月1日	講演会「虹や月あかりからおはなしをもらってきた作家・宮澤賢治」	大岡玲

(表2)。ブックトークは本の著者による著書についての講演の後、登壇者でパネルディスカッションを行い、さらに参加者からの質疑を受ける形で進められた。2015年1月に実施したものは恋愛に関する題材でもあったためか、参加学生から、きわめて盛んな質疑がなされた。2015年7月に行われたトークイベントは、宮澤賢治の文学的な側面、作品等に見られ

教職協働による図書館利用促進活動のトライアルから恒常化へ

る科学に関する側面をそれぞれ専門の異なる教員が自由に語るという形式で行われた。2015年10月、11月の講演会は大学祭（葵祭）実施期間中に図書館を一般公開するのに合わせて、学外の聴衆にも開く形の講演会を試行したものである。また、正課授業との関連を意識して、図書館に導入されている経営系のデータベースの活用を促すワークショップを2015年10月に開催した。

3.2 ニュースレター「図書部だより」の発行

2013年度においては後述する学生サポーターからの発案として「図書部だより」1～2号を発行した。2014年度からは内容を充実させたニュースレター誌としてはほぼ季刊ペースで3～8号までを発行した。学内資金による援助を受けたため、学外印刷を利用してカラー刷りの美しい仕上がりとすることができた。内容としては図書部関係者の企画による特集記事や学生・教職員の寄稿などで構成された。これらのバックナンバーは、すべて東京経済大学学術機関リポジトリに公開されている（<http://repository.tku.ac.jp/dspace/handle/11150/1161>）。

3.3 選書展示

2013年度に図書部メンバーの教員が関わる4件の選書展示がおこなわれた。あるテーマに沿って教員が推薦する本にポップを付して面陳列することで、手に取りやすい形で推薦本を示すことができるものである。その後「図書部」としての展示提案に並行して、様々な教職員からの展示提案が行われるようになった。図書部メンバーの教職員が関与する展示として2014年度に7件、2015年度に15件が展開された。学内での講演会等さまざまなイベントに関連して展開されたものもあった。さらに、初年次学生を主な対象とした学習方法に関する本の選書展示（2014年度の「大学での勉強 キソのキソ」、2015年度の「Books for freshers」）、語学学習に関連づけた展示（2014年度の「世界の言語と文化を学ぶ」）など、正課授業とも関わる展示もいくつか展開された。

3.4 ビブリオバトル

ビブリオバトルは様々な大学や公立図書館に広がりを見せている（ビブリオバトル普及委員会、2017）。学生の読書推進等の効果をねらって東京経済大学でも図書館イベントとしてビブリオバトルを取り入れるべく、2015年度の活動のなかで試行した。2015年12月15日に教職員編として教職員登壇者5名で、2016年1月14日に学生編として学生登壇者5名でそれぞれ開催した。ビブリオバトルの教育的な側面については別稿で報告する予定である。

3.5 学生サポーター

2013年度の「図書部」開設時には、早稲田大学教育学部学生読書室に関わる学生ボラン

ティア組織を参考として、学生サポーター組織としての「図書部」立ち上げが第1の目的とされた。企画が承認された6月より募集を始め、25名の部員が集まり、後述する写真コンテストの運営、図書部だよりの編集、本棚・ポップ作成等に取り組んだ。上述の通り2014年度は2期からの活動となったこともあり、サポーター組織は解消され、その後は教職員主体の活動となった。2014年度、2015年度においても、職員メンバーによりサポーターとしての学生参加が模索されたが、組織化するには至らなかった。

3.6 その他

2013～2015年度にかけて開催したイベント等の概要は上記図書部だよりの第8号にまとめられている（東京経済大学図書部，2016）

- (1) 「図書部 twitter」 (@tku_toshobu) として学内外の300を超えるフォロワーを得て、図書館情報のみならず学内の情報や本に関する情報をつぶやくアカウントを維持した。
- (2) 旧図書館の閉館を迎えるにあたって、旧図書館の歴史や意義の周知や図書館としての最後の姿を記録するために図書館写真コンテストを2013年12月に行い金賞・銀賞・図書館長賞・特別賞を選び表彰した。
- (3) さまざまな図書館関連ツアーを実施した。書店に行きその場で選んだ本を購入する選書ツアーが2013年の6月、7月に実施され、購入した本はポップを付して図書館に展示された。また、大宅壮一文庫見学ツアーを2013年9月に、国立国会図書館見学ツアーを2013年12月に実施した。これら図書館関連ツアーはその後図書館主催に引き継がれて何度か実施された。
- (4) 図書館のマスコットキャラクターが2013年の図書部発足時より使用されていた。先述の通り、図書館のマスコットキャラクターを、広報等に利用するトレンドを踏まえて、2016年1月に図書館キャラクター命名コンテストを行ない、広く学内者から名前を募集した（図書館主催，「図書部」共催）。図書館内で投票をした結果を受けて図書部・図書課で議論の結果、最優秀賞1件、優秀賞・図書館賞各2件を選んだ。
- (5) 「第17回図書館総合展」および、「第22回大学教育研究フォーラム」（相澤・東京経済大学図書部，2016）でポスターセッションによる発表を行なった。これらはいずれも2013～2015年度の「図書部」活動を取りまとめるとともに、その意義と課題について報告するものであった。前者は公共・機関・企業・大学・学校等すべての館種の図書館に関連する、最新技術・サービス・トレンド・学術情報を紹介する国内の図書館界最大の展示会であるので、図書館関係者に東経大図書館における取り組みを広報する事が目的であった。後者は大学教育に関する情報を交換する回数を重ねた集まりである。したがって他大学の関係者に対して「図書部」の教育的側面を広報すること

を目的とした。

4. 効果と今後の見通し

読書推進あるいは図書館利用促進活動として明確に効果のあったことの一つは選書展示である。たとえば、新館開館後の2014年4月から2015年2月にかけての貸出率資料によると、最も利用頻度の高い図書館1階開架書架の貸出率は48%（総資料冊数25,501に対して貸出件数12,246、ただし選書展示分を除く）であった。それに対し、同時期に図書館1階で行われた選書展示資料についての貸出率は147%（総展示冊数476に対して貸出件数700）であった。とはいえ、選書展示による効果は図書館利用全体で見れば限定的である。本格的な利用促進のためには、正課授業との関連が欠かせないであろう。「図書部」の活動でもこの点を意識して、読書会等で養った読書指導のノウハウをFDミーティングで還元したり（2015年2月）、正課と関連する選書展示を行ったり等の取り組みはなされていた。さらにその後、初年次ゼミ履修者によるビブリオバトルの開催をはじめとする、正課授業と図書館利用を関連づけた試みが行われており、イベント性を持った活動のノウハウが「図書部」活動を通じて図書館に蓄積したことには、一定の意義があったものと考えられる。

一方、読書会等のイベントへの集客については問題が残った。前記のtwitterでの発信を含めてインターネットでの情報宣伝のみならず、ポスターや授業での案内など様々な手段を尽くしたものの、イベントにより参加者数にかなり差があったことは否定できない。これは同様の時期に「学内GP」「教育改革支援制度」の援助を得た正課外活動として実施していた「TKUサイエンスカフェ」（新正ほか、2017）とも共通した問題であった。また、上述のように、2013年度の企画開始時は図書館学生サポーターを募集し組織されたが、学生組織としての「図書部」は2014年度以降継続することができなかった。加えて、既存の図書館の学生アルバイトスタッフとの連携等も実現せず、イベントの企画者としても参加者としても学生の巻き込みが全体的な課題として残った。

予算上の裏付けがなくなった現在も、「図書部」として実施していた活動のいくつかは図書館の恒常的な活動として引き継がれている。トライアルとして行なった活動の中には、年度を限った予算処置に依存したり、教職員メンバー個人のボランティアな労力を割いて行われていたりしたため、そのままでは継続が難しいものもあった。試行の中から実施可能と判断され、恒常的に行われている、あるいは行われつつあるものについて、おおよその現状を列挙する。

(1) 「図書部だより」

「図書部だより」としてニューズレター誌を発行していたが、受け継ぐ形で図書館の

広報リーフレットとして「図書館だより」が本稿執筆時までに2号発行されている。今後年3回程度を目標に発行される予定である。

(2) 読書会・ブックトーク

主に、教員からのイベント提案を受ける形で図書館行事として「図書部」終了後も継続されている。2016年度にはブックトーク1回が、2017年度にはすでに複数の読書会企画が実施されている。

(3) 選書展示

教職員から提案されて、あるいは図書館自体が企画した選書展示が「図書部」終了後も広く行われている。書籍のみならず、DVDなど視聴覚資料を含めたものや、授業や学内イベントに紐づいたものなどそれぞれ工夫して多数展開されている。

(4) ビブリオバトル

2015年度に試行的に行われたビブリオバトルは、「図書部」終了後も2016年7月、2017年7月に「フレッシュャーズ・セミナーa」履修生対抗で、2017年1月に宮城教育大学のビブリオバトルサークル学生とのオンライン対決という形で実施した。今後1年次の学生対抗の回と、一般学生がバトラーとなる回の年2回程度の実施を定番化することを模索している。

(5) Twitter

「図書部」活動実施時から「図書部」「図書館」のアカウントがそれぞれ情報の発信を行っていたが(図1)、開館時間のつぶやきなど「図書館」アカウントで発信されるべきものは2016年度よりそちらに一本化された。



図1 「図書部」(右)と図書館(左)のtwitterアカウント。アイコンとして図書館のマスコットキャラクター「とけぼん」を色違いで使用している。2016年度からは図書館の公式性の高い情報は、図書館ホームページのニュースとリンクする形で図書館アカウントから発信されている。

謝辞

本報告での取り組みに対しては東京経済大学における2013年度「学内GP助成」、2014～

教職協働による図書館利用促進活動のトライアルから恒常化へ

2015年度「教育改革支援制度」により費用面での援助が行われました。図書館に参加した教職員をはじめとして、ご協力いただいた関係者に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 相澤伸依・東京経済大学図書館（2016）「読書習慣のない学生に向けた読書指導：東京経済大学図書館の試み」, 『第22回大学教育研究フォーラム発表論文集』, 122-123.
- ビブリオバトル普及委員会（2017）「知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト」, (<http://www.bibliobattle.jp/home>), 2017年8月17日アクセス.
- 榎本裕子（2013）「東京大学柏図書館ブックトーク」, 『大学の図書館』, 32, 19-23.
- 廣田未来（2011）「お茶の水女子大学附属図書館の学生支援：ラーニングコモンズとLiSAプログラム」, 『情報の科学と技術』, 61, 489-494.
- 井上真琴（2004）『図書館に訊け!』, ちくま新書486, 筑摩書房, 東京.
- 長神風二（2008）「サイエンスコミュニケーションと図書館」, 『情報管理』, 51, 321-333.
- 新正裕尚・榎基宏・大久保奈弥・阿部弘樹（2017）「サイエンスカフェ・サイエンスツアーを組み合わせた社会科学系学部生への正課外自然科学教育実践」, 『科学技術コミュニケーション』, 21, 79-87.
- 東京経済大学図書館（2016）「図書館活動, 総集編!」, 『図書館だより:TKU Library News』, no.8, (<http://repository.tku.ac.jp/dspace/handle/11150/10769>).
- 図書館総合展（2017）「募集「第3回図書館キャラクター・グランプリ」開催のご案内」, (<https://www.libraryfair.jp/news/5546>), 2017年8月17日アクセス.